

令和7年度  
第1回一関市博物館協議会  
次 第

日時 令和7年7月25日(金)  
午後2時から午後4時まで  
会場 一関市博物館 研修室

<辞令書交付>

- 1 開会のことば
- 2 挨拶
- 3 協議
  - (1) 令和6年度事業実績と内部評価について
  - (2) 令和7年度事業の取り組み状況について
  - (3) その他
- 4 その他
- 5 閉会のことば

令和7年度第1回一関市博物館協議会出席者名簿

■一関市博物館協議会 (任期 令和7年7月1日～令和9年6月30日)

[敬称略]

No.	氏名	所属	組織区分	備考	出席
1	かめ や谷 たく 亀 谷 琢			(新任)	欠
2	あお ぬま とおる 青 沼 徹				欠
3	さ とう ただ のぶ 佐 藤 禎 信				○
4	きん の たか ゆき 金 野 敬 之			(新任)	○
5	ち ば のぶ たね 千 葉 信 胤				○
6	さ の のぶ ひろ 佐 野 修 弘				○
7	ち ば きち こ子 千 葉 幸 子				○
8	いさ ご ふみ あき 砂 金 文 昭				○
9	すが わ まり こ子 菅 原 真 利 子				○
10	くま がい つね まさ 熊 谷 常 正				○
11	たか はし あけみ 高 橋 あけみ			(新任)	○
12	ひら さわ ひろし 平 澤 広				欠
13	さ とう ひとし 佐 藤 仁			(新任)	○
14	ち ば じゅん こ子 千 葉 順 子			(新任)	○
15	もり ひで たか 森 英 隆			(新任)	○

■一関市教育委員会・一関市博物館

No.	氏名	役職名	備考	出席
1	とき えだ なお き 時 枝 直 樹	教育長		○
2	きく ち いさ お夫 菊 池 勇 夫	博物館長		○
3	さ さき しゅう じ路 佐々木 修 路	博物館次長		○
4	おお ひら さ おお 大 衡 彩 織	博物館副館長兼学芸係長		○
5	はし ほん けい こ子 橋 本 美 子	博物館副館長兼庶務係長		○
6	そ 相 ま みき こ子 相 馬 美 貴 子	博物館主任学芸員		○
7	こ み ひろ ゆき 小 味 浩 之	博物館主任学芸員		○
8	い 野 たつ や也 椎 野 達 也	博物館学芸員		○

○一関市博物館協議会規則

平成17年9月20日

教育委員会規則第30号

(趣旨)

第1条 この規則は、一関市博物館条例（平成17年一関市条例第78号）第3条に規定する一関市博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 協議会は、一関市博物館（以下「博物館」という。）の運営に関する基本的事項について審議するものとする。

(会長及び副会長)

第3条 協議会に会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選とし、その任期は、委員の任期による。
- 3 会長は、会務を総理し、会議の議長となり、協議会を代表する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第4条 会議は、必要に応じて教育長が招集する。

- 2 会議は、委員半数以上の出席がなければ開くことができない。

(庶務)

第5条 会議の庶務は、博物館において処理する。

(補則)

第6条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、一関市教育委員会が別に定める。

附 則

この規則は、平成17年9月20日から施行する。

附 則（平成24年1月30日教委規則第1号）

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

令和 6 年度

# 事業実績と内部評価

## 目 次

I	一関市博物館の設置理念と活動方針	1
II	事業実績と内部評価	3
i	展示活動	3
1	常設展示	3
2	特別展 「江戸の大名屋敷 - 一関藩・仙台藩 -」	4
3	企画展	6
①	企画展1 「菅原清蔵の民藝コレクションに見る植物意匠 (ボタニカルデザイン)」	
②	企画展2 「祈りの中の動物たち」	
③	企画展3 「暮らしのなかの道具」	
ii	教育普及（交流連携）活動	13
1	講座	13
2	体験学習	15
3	その他の交流連携（教育普及）活動	17
iii	資料収集・保存・貸与・管理等	19
iv	調査研究活動	21
v	大槻家資料保存活用事業	22
vi	広報活動	23
vii	その他	24
III	資料	25
1	入館者統計	25
2	講師派遣等状況	26

## I 一関市博物館の設置理念と活動方針

### 設置理念

一関市を中心とする岩手県南、宮城県北地方は、古代末期に日本刀の起源のひとつとされる舞草鍛冶が起り、中世には中尊寺領骨寺村の開発や葛西氏400年の統治、近世には仙台藩伊達氏やその支藩である一関藩田村氏による藩制の展開、また、儒学者・蘭学者を輩出した大槻家の活躍、建部家を中心とした蘭医学や千葉家を中心とした和算の隆盛など、個性的な文化をもっていた。

このような、地域の歴史の流れとその文化的特色、舞草刀を中心とした刀剣、地域にゆかりのある先人たちの歩みと業績を主な対象として、歴史と文化をとりあげた人文系の博物館を設置する。博物館は、市民が地域の歴史的・文化的個性に親しみながら、普遍的な価値観や精神的な豊かさを追求する生涯学習の場とする。

その実現のために、以下の事項を達成すべき目標として掲げる。

#### 1. 地域の歴史・文化の解明と継承に尽くす博物館

地域の歴史・文化にかかわる資料を収集し、それらを解明して、次代へ継承していくことにより、人々の生きる力や地域文化の向上に役立ち、また、進取、創造性に富む人材の育成に寄与することをめざす。

#### 2. 研究成果を蓄積し情報発信・提供する博物館

学術調査・研究をすべての博物館活動の基礎と位置づけ、その成果を博物館の諸活動に反映させ、広く情報を公表し提供していくことにより、常に成長・発展する情報提供能力の高い博物館をめざす。

#### 3. すべての人々が交流・連携し利活用する博物館

世代を越えたすべての人々が、自主的・主体的に交流・連携し、楽しみながら学び課題を解決し、そして、新たな価値を創出できるような、市民とともに歩む地域の知的創造活動のセンターをめざす。

## 活動方針

### 1. 資料収集・整理・保存

「地域の歴史」「舞草刀と刀剣」「大槻玄沢と蘭学」「大槻文彦と言海」「一関と和算」「地域の美術工芸」の6テーマにそった資料を収集し、整理して、確実に保存して次代へと継承する。

### 2. 調査・研究

前項1で掲げた6テーマを中心とした調査・研究を、地域の人々や研究機関などとの連携・協力のもとに推進・研鑽し蓄積していく。それらの成果は、資料収集に反映させ、展示、交流・連携、研究報告書、図録、学界(会)発表、情報提供・サービスなどにより公表していく。

### 3. 展示

#### (1) 常設展示

「一関のあゆみ」「舞草刀と刀剣」「玄沢と蘭学」「文彦と言海」「一関と和算」の5テーマに関して、地域の歴史と文化の変遷と個性を研究し、多様な資料により系統的に展示する。

#### (2) 企画展示

前項1で掲げた6テーマに基づき、調査・研究の成果の上に立って選定した各地の資料を系統的に展示する。図録や関連出版物を刊行して、より広く成果を社会に還元するとともに、情報を蓄積し将来の要求に備える。

### 4. 交流・連携

多様な講座・講演会・体験学習・見学会などを企画し、さらに、人々が世代を越えて自主的・主体的に学び考えながら交流を深めることができる機会を提供する。また、所蔵資料の貸出し、講演などの要望に対応していくとともに、友の会を設置するなど、あらゆる場面において市民個人・機関との連携を推し進めていく。

### 5. 情報提供・サービス

博物館が収集・蓄積した学術情報を発信・提供するとともに、その方法の迅速化・利便化をはかっていく。また、収蔵資料の利用についても積極的に対応していく。

平成16年8月26日一関市教育委員会了承

## II 事業実績と内部評価

### i 展示活動

#### 1 常設展示

事業名	概要(主な内容)	成果と課題 (○成果、☆課題)
常設展示	常設展示の展示替えを行った。	☆通史展示室以外の展示室のキャプションの見直し
長沼守敬に関する展示	【目的・概要】 一関出身の洋風彫刻家である長沼守敬を顕彰するため、エントランスホールにパネルを展示（通年）。	○長沼守敬およびその業績を周知できている。
展示解説アプリ「ポケット学芸員」の活用 解説 37点	【目的】 展示物の解説をいつでもどこでも受けることができる体制を整備し、貴重な資料による学習の機会を確保する。 【概要】 スマートフォン等で利用できる無料アプリ「ポケット学芸員」を活用し、展示物の解説などを文字・画像・音声で提供している。スマートフォンを持っていない入館者にはタブレット端末の貸し出しを行っている。	☆公衆無線LANの使用可能範囲が1階自販機周辺に限られ、2階の展示室で「ポケット学芸員」の表示を見てからダウンロードしようとするとう不便を生じさせる場合がある。 ☆コンテンツの追加

## 2 特別展

### 特別展 「江戸の大名屋敷—一関藩・仙台藩—」

#### 【趣 旨】

江戸時代、各大名は、参勤交代により江戸での生活が命じられ、そのために幕府から江戸に屋敷を拝領した。上屋敷・中屋敷・下屋敷などと区別された大名屋敷は、各藩の江戸での活動の拠点となり、その動向は国元の領民にも影響を及ぼした。

仙台藩の屋敷跡は、汐留遺跡として注目され、大規模な発掘によりその構造が明らかになっている。また、その近くの愛宕下にある一関藩の上屋敷跡からも注目される遺物や遺構が発見されている。

発掘の成果や歴史資料を通して、一関藩・仙台藩の江戸屋敷の構造や機能、暮らしや事件、藩主の大名としての側面や領民との関わりを紹介した。

【開催期間】 令和6年9月14日（土）～11月24日（日）

【開催日数】 62日間

【入館者数】 5,576人（89.9人／日）

#### 【展示概要】

##### 展示構成

- I 幕府と大名
- II 仙台藩の江戸屋敷
- III 一関藩の江戸屋敷
- IV 江戸屋敷の暮らし
- V 一関藩江戸屋敷の事件簿

展示資料数 151点（会期中展示替えを実施した）

#### 【関連行事】

##### (1) 講演会

###### ① 「大名・武士の江戸暮らし」

講 師：大石 学氏（東京学芸大学名誉教授・時代考証学会会長）

日 時：10月6日（日） 13：30～15：00

参加者：107人

###### ② 「発掘調査成果から見た江戸の大名屋敷」

講 師：内野 正氏（東京都埋蔵文化財センター）

日 時：10月20日（日） 13：30～15：00

参加者：57人

##### (2) 一関藩江戸屋敷講座

内容及び講師

①「忠臣蔵」と一関藩—浅野内匠頭御預けをめぐる虚と実—  
大島晃一氏(岩手県南史談会幹事長)

②「一関藩邸の火災と復興」 当館学芸員

日 時：11月17日(日) 13:00~15:30

参加者：94人

(3) 秋のお茶会

日 時：10月26日(土)の入館無料日、10:00~13:00 (50人まで)

協 力：一関茶道会

参加者：62人

(4) 館長講座「江戸の警備と大名」

講 師：菊池勇夫(当館館長)

日 時：9月22日(日・祝) 13:30~15:00

参加者：32人

(5) 展示解説会

日 時：9月22日(日・祝) 15:10~16:00 22人

10月6日(日) 15:10~16:00 47人

10月20日(日) 15:10~16:00 27人 合計96人

解 説：当館学芸員

#### 【成 果】

- (1) 令和2年度に予定していたテーマ展②「一関藩の江戸屋敷」が、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となったものを、特別展として規模を拡大して企画したものである。仙台藩を加えることにより、当市全域が対象となり、大規模な発掘調査が行われた汐留遺跡をとりあげ、表門の模型や、仙台藩主にかかわる伝世品、重要文化財の伊達政宗書状など見応えのある品を公開することができた。またこの間、一関藩の上屋敷について、当館では研究報告に関連資料を紹介し、港区教育委員会では新たに発掘調査を実施、4年度には総括報告がなされており、最適なタイミングでの開催となった。
- (2) 出土資料、古文書・古記録、伝世品等、多様な角度から江戸屋敷の様相を紹介したもので、観覧者にはそれぞれに関心を持って見ていただけた。図録には、異なる観点から江戸や大名屋敷にアプローチする3本の寄稿を掲載し、執筆者による講演と合わせて、展示の理解を深めることとなった。
- (3) 中心に一関藩の上屋敷が映るパノラマ写真があり、拡大して掲示した迫力のある画面により建物が密集した江戸の町を感覚的にとらえるとともに、細部を観察することが可能となった。
- (4) 東京大学工学部、東京都教育委員会、港区歴史博物館から資料を借用したが、いずれもゆかりの地で公開し地元の人々に見てもらえるのはありがたいと、協力していただけた。

- (5) 展示室入口に門の造作を設置、順路の表示に一関藩の火消行列の図を使用した。展示に興味を抱かせる効果があった。
- (6) 資料名は、一般的に所蔵先の名称を用いるのが原則であるが、発掘調査報告書は統一されていない場合やわかりにくい場合も多かったため、理解しやすいものに変更した結果、来館者が着目しやすくなる効果があった。
- (7) 関連行事として開催したお茶会は、入館無料の日ということもあり、お茶会を目当てに来た人も見学をしていた。中には初めての来館という方もいたが、展示を楽しんでおり、博物館を知ってもらう効果があった。
- (8) 団体の見学もあり、多くの方にご覧いただいた。宮城県の市町村、岩手県南の旧仙台藩領にポスターを配布した効果もあったと思われる。
- (9) 講演会も多くの参加者を得たが、市内を中心に、平泉・奥州市、栗原市、登米市の人が9割を占めており、通常利用していただくエリアの人々に関心のあるテーマであったことによるものと思われる。

#### 【課題】

- (1) 古文書の一部であるが、翻刻文をまとめ配布したこともあり、解読文や現代訳、より多くの翻刻等を望む声は、これまでの展覧会に比してそれほど多くなかったものの若干の要望があった。また、展示資料の文字部分の拡大、要約が欲しい等がアンケートにあり、展示スペースとどの程度解説をするかの兼ね合いも含めて、いっそうの工夫が必要である。
- (2) 東京都埋蔵文化財センターの発掘調査報告書が、当館には、令和元年に依頼して寄贈していただいた一部の報告書しか所蔵しておらず、複数の図書館から借用することとなり不便なことがあった。きめ細かい文献資料の収集が必要であった。
- (3) チラシが不足した。(7,000枚印刷)

### 3 企画展

#### 企画展1「菅原清蔵の民藝コレクションに見る植物意匠（ボタニカルデザイン）」

##### 【趣旨】

当館が所蔵する菅原清蔵の民藝コレクションから、植物がデザインされた品々を展観する。

「民藝」の考え方では、名も無い職人が作ったもの、民衆のための実用品であることなどが大切にされる。

この企画展で展示する品々は、いつ、だれが、どこで作ったものかがはっきりしないものも多いが、「民藝」の観点で収集された、のびやかな造形を楽しんでいただけるように紹介する。

【開催期間】 4月27日(土)～6月9日(日)

【開催日数】 38日間

【入館者数】 1,774人 (46.7人/日)

【展示概要】

展示構成 (自由動線)

- ・めでたい植物がいっぱい～馬衣
- ・シンボルマークとしての植物～しるし・家紋
- ・花、花、花～花巻人形
- ・蓋を開ければ心も踊る～漆の食器
- ・秀衡椀の仲間～浄法寺椀
- ・菅原の民藝コレクションの代名詞～秀衡椀
- ・手描きの線の味わい～漆皿
- ・植物の象徴する幸せにあやかれますように～さまざまな布
- ・「継ぎ」にも趣～藍染木綿裂
- ・「火消し」の揃い～火事頭巾
- ・ほのぼのとしたおかしみ～風景の中の植物 (漆盆、行灯皿、土瓶、銚子)
- ・素材を生かした造形～けら・ばんどり 樹皮・竹・藁製品
- ・菓子を食せば植物の生命力まで我が物に～菓子型
- ・菅原清蔵のことば (「みちのくに美を求めて」『河北新報』昭和29年 より)
- ・菅原清蔵のスケッチブックなど
- ・柳宗悦が菅原に贈った自著

展示資料数 303点

【関連行事】

- (1) 演奏会「風薫る音楽会～野に咲く花たちの声が聞こえる～」

演奏：葉井歩 (は～ぼ)

- ・バイオリン 佐藤葉子氏
- ・電子ピアノ 佐藤美歩氏

日時：5月19日(日) 14:00～15:15

参加者：73人

- (2) 館長講座「柳宗悦と東北・岩手—民藝調査の旅—」

日時：5月12日(日) 13:30～15:00

講師：菊池勇夫 (当館館長)

参加者：25人

- (3) 「落雁の型」にまつわる話

講師：当館職員

日時：5月19日(日) 13:30～13:50

参加者：39人

#### (4) 展示解説会

日時および参加者

5月11日(土) 13:30~14:10	参加者	4人	
5月25日(土) 13:30~14:10	参加者	11人	
6月8日(土) 13:30~14:10	参加者	10人	合計25人

解説：当館学芸員

#### 【成 果】

- (1) これまでに行っていない新たな切り口「植物意匠」で当館のコレクション「菅原清蔵コレクション」を紹介することができた。
- (2) 過去にも同コレクションによる展覧会を複数回行っているが、これまで展示したことのない品を数多く紹介した（これまでは、コレクションの概況のほか、秀衡椀、灯具、花巻人形の特集等）。
- (3) 関連行事として、館長講座、演奏会、落雁の型にまつわる話、展示解説会を開催し、多角的に展覧会に迫る機会を設けた。
- (4) 会期中に開催した体験学習「博物館でアートを楽しむ 点描で小粋なコースターを作ってみよう」では、企画展に関連して、植物をモチーフとした作品制作を行い、展覧会鑑賞へとつなげる機会とした。

#### 【課 題】

##### (1) 写真撮影について

ほとんどの展示品は著作権法上の制限がないため写真撮影可とした。著作権で保護されている品（著作権保護期間中）や、著作権者から撮影を不可とされている品（は撮影を不可とした）。

アンケートには、全点を写真撮影可としてほしいという要望も見られた。

撮影不可の理由を逐一表示することは著作権者に対する非難につながる可能性もあるため避けた。よりよい表示の仕方については引き続き検討したい。

#### 企画展2「祈りの中の動物たち」

##### 【趣 旨】

私たちの暮らしの中で動物は、農業や養蚕といった生業に深く関わっており、時には絵馬に描かれ、信仰の対象となることもある。

絵馬には、大切な労働力であった牛馬や、猫などの各種動物が描かれることがあり、祈願者の動物に対する愛情や、生活の発展や幸福を祈念する思いが感じられる。

また、土人形には動物ごとに様々な意味を持たせたものもあり、犬であれば「安産」「子供の健やかな成長」といった願いが込められている。

動物が表現された絵馬や土人形などを中心に、人々と身近な動物との関わりや、その思いに

ついて紹介する。

【開催期間】 7月6日(土)～8月18日(日)

【開催日数】 38日間

【入館者数】 1,675人(44.1人/日)

【展示概要】

展示構成

- ① 子供の健康・幸福と動物
- ② 開運招福と動物
- ③ 養蚕成功の祈りと猫
- ④ 牛馬の安全と厩猿
- ⑤ 災難除けと動物
- ⑥ 民俗芸能と動物

資料点数 85件(104件)

【関連行事】

(1) 講演会

- ① 「岩手南部の動物民俗－猫・狼と人の関係－」  
講 師：石黒伸一郎氏(村田町歴史みらい館館長)  
日 時：7月14日(日) 13:30～15:00  
参加者：44人
- ② 「仙台藩の猟師鉄砲－管理と密猟－」  
講 師：村上一馬氏(宮城県利府高等学校教諭)  
日 時：8月3日(土) 13:30～15:00  
参加者：20人

(2) 館長講座 「御鷹と御犬－生類憐みの令－」

講 師：菊池勇夫(当館館長)  
日 時：7月28日(日) 13:30～15:00  
参加者：24人

(3) はくぶつかんくいず

期 間：8月1日(木)～8月18日(日)  
参加者：71人

(4) 展示解説会

日 時：7月14日(日)	15:10～15:50	27人
7月27日(土)	13:30～14:10	10人
7月28日(日)	15:10～15:50	12人
8月3日(土)	15:10～15:50	8人

8月10日(土) 13:30~14:10 13人

8月11日(日・祝) 13:30~14:10 8人

合計78人

#### 【成 果】

- (1) 個人所蔵の厩猿を借用することができた。当初、館蔵資料のほかは村田町歴史みらい館と牛の博物館、一関市民俗資料館から借用した資料で展示構成を考えていたが、市内の個人から借用ができたことで、当市の厩猿を紹介できた。
- (2) 期間中外国人団体(ツアー)が2件ほどあった。うち1件(中国圏の団体客)ではツアー会社の方に同時通訳で展示解説を行った。動物の縁起物などは、中国にもあるので説明が容易であった。
- (3) 夏のえきえき事業にからめて、博物館クイズを作成し、事業終了後に、事務と協力して希望者に博物館クイズを実施することができた。記念品は過去に当館で作った一筆箋を配布することができた。
- (4) 菅原清蔵コレクションを活用できた。特に、鹿の角(鹿踊り装束の一部)については初公開である。
- (5) 廃社となった蚕養神社の信仰資料(絵馬、猫木像)を村田町歴史みらい館から借用・展示し、市内の養蚕にかかる猫の信仰を紹介できた。展示期間中に、蚕養神社(跡)を見学したいという問い合わせが数回寄せられ、反響を得られた。
- (6) 民俗資料館職員の協力を得て、行山流舞川鹿子躍装束一式の借用・返却にかかる作業を行えた。

#### 【課 題】

- (1) 当初担当を予定していた学芸員の異動があったため、実際に担当することになった学芸員は、展示の企画・準備を異動直後から行わなければならなかった。異動の内示後に準備するのは大変であった。
- (2) パネル・キャプション・図録に誤記をした。図録については、当初訂正シールを貼り、残部は正誤表を用意している。
- (3) 講演会の参加者で、タブレット機器を用いて講演会の様子を撮影しているような方(遅れて来館した方)がいた。今後、撮影等を禁止する場合は、受付等に分かりやすい表示が必要と思われる。
- (4) 展示ケースの大きさに対して展示資料の量が不足していると感じる箇所(鯉轍2点を展示した壁面ケース)があった。展示構成について未熟であると思われるので、今後見せ方等を工夫したい。

### 企画展3 「暮らしのなかの道具」

#### 【趣 旨】

一関周辺で使われたむかしの道具について紹介する。

【開催期間】 1月25日(土)～5月18日(日)

※年度当初計画から変更。当初計画では3月16日(日)で閉会。

【開催日数】 98日間

令和6年度分 56日間、令和7年度分 42日間

【入館者数】 3,315人(33.8人/日)

令和6年度分 1,628人(29.1人/日)、令和7年度分 1,687人(40.2人/日)

#### 【展示構成】

- ・導入(昭和のレコード、ホーロー看板、デパート広告)
- ・昭和の生活道具(炊事、洗濯、ラジオ、テレビ、バリカン、カメラなど)自由導線
- ・ある日の六畳間(ちゃぶ台、茶筆筒、白黒テレビなどを配置し、六畳間を再現)

展示資料数 約161点

#### 【関連行事】

(1) 館長講座 「雪国の春—柳田國男を読む—」

講 師：菊池勇夫(当館館長)

日 時：2月23日(日・祝) 13:30～15:00

参加者：20人

「餅の文化史」

講 師：菊池勇夫(当館館長)

日 時：5月11日(日) 13:30～15:00

参加者：11人

(2) 展示解説会

日 時：1月25日(土)	13:30～14:10	10人	
2月23日(日・祝)	15:10～15:50	8人	
3月8日(土)	13:30～14:10	2人	令和6年度合計20人
4月29日(火・祝)	13:30～14:10	9人	
5月4日(日・祝)	13:30～14:10	8人	
5月5日(月・祝)	13:30～14:10	11人	
5月11日(日)	15:10～15:50	1人	
5月17日(土)	13:30～14:10	5人	
5月18日(日)	13:30～14:10	11人	開催期間合計65人

## 【成 果】

- (1) 展示利用しにくい大きなレコードコンポなどを展示できた。
- (2) 販売している昔の暮らしの道具のパンフレットをもとに展示構成した。
- (3) ちゃぶ台や白黒テレビを配置した六畳間を再現展示し、来館者の郷愁を誘うほか、かつてそれらの道具を使用した経験のある来館者が、同伴者と昔の暮らしについて語らうきっかけを構成した。
- (4) 来館者（例えば親子連れ）同士のコミュニケーションや思い出話が図れるように、資料個別の説明を極力少なくし、主要な道具の説明を天井から掛軸状に吊るした。掛軸状に吊るした解説により、展示室を立体的に構成することができた。
- (5) 展覧会終了後、常設展示していた昔の道具コーナーの展示物等を見直し、小学校の学習利用の際に活用しやすい資料（二槽式洗濯機、手回し洗濯器、白黒テレビ、木製冷蔵庫など）に入れ替えることができた。
- (6) 会期が小学校の3学期にかかることで、小学校の学習利用に柔軟な対応をすることができた。これまでの昔の道具コーナーは、現在の小学生からすると古すぎる道具（ひいおじいさん・おばあさんの時代のもの、藁を材料としているもの）が中心であったので、テレビやレコードプレーヤー、ダイヤル式電話機など、おじいさん・おばあさんの時代の道具を中心に展示資料を選定した。

## 【課 題】

- (1) 展示解説を簡略化し、資料個別の年代について示さないことでキャプション等を作成したが、アンケートに年代を記してほしいという回答があった。大まかな年代（昭和30年代、平成初期など）を示すことができれば、なお充実した内容になったと考える。

## ii 教育普及（交流連携）活動

### 1 講座

事業名 期日・回数等・参加人数	目的と概要(主な内容)	成果と課題 (○成果、☆課題)
館長講座 4回・101人 (1)「柳宗悦と東北・岩手 ー民藝調査の旅ー」 5月12日(日)・25人 (2)「御鷹と御犬ー生類憐みの令ー」 7月28日(日)・24人 (3)「江戸の警備と大名」 9月22日(日・祝)・32人 (4)「雪国の春 ー柳田國男を読むー」 2月23日(日・祝)・20人	<b>【目的】</b> 当地域に関わる館長の研究の一端をわかりやすく紹介する。 <b>【概要】</b> 左欄のとおり	○特別展や企画展に関連した講演会を館長が行うことで、各展覧会への興味を喚起できた。
講座「超初心者のための絵の見方」当館学芸員 3回・26人 (1) 日本画編 5月12日(日)・7人 (2) 洋画編 5月26日(日)・10人 (3) 版画編 6月9日(日)・9人	<b>【目的】</b> 美術に関心はあっても「知識がないから楽しめないような気がする」「美術館や博物館に行きたいが気後れする」という鑑賞初心者に、作品鑑賞の楽しさを伝える。 <b>【概要】</b> 学芸員と一緒に館蔵作品を見て楽しむ。	○館蔵作品を間近に見てもらいながら解説を行うスタイルを採ったことで、美術についての関心が高まった様子であった。 ○初めての企画であったが、参加者からは来年度も開催して欲しいとの要望があった。
古文書初心者講座 3回・57人	<b>【目的】</b> 古文書に親しみ、その意義を知る。 <b>【概要】</b> はじめて古文書を学ぶ人	○様々な古文書を利用して、基礎的な知識の習得に寄与した。 ☆初心者だけでなく、ある程度の知識を持った人も

	を対象に江戸時代の古文書を教材としてくずし字や古文書の基礎知識を学ぶ連続講座。	おり、知識や理解度に差があるため、進め方が難しい。
古文書講座 一江戸の暮らしを読む 3回・38人	【目的】 古文書に親しみ、その意義を知る。 【概要】 当館所蔵の古文書を解説して、大名や武士、町人の江戸での生活を読み取る連続講座。	○開催中の特別展に合わせた題材としたため、関心を高め、理解を助ける双方向の効果があつた。 ☆興味を持った参加者が継続して学習できる場が必要。
和算講座入門編 3回・46人 (1)「和算の歴史と一関」当館学芸員 7月27日(土)・15人 (2)「江戸時代のお金の話」菅原通氏 8月10日(土)・18人 (3)「和算書と算額の読み方一和算用語を中心に」千葉秀昭氏 8月24日(土)・13人	【目的】 和算の歴史と文化的な側面をさまざまな切り口から知っていただく。 【概要】 岩手県和算研究会との共催で実施し、2回の講師は研究会会員。内容は左記のとおり。	○和算を文化史の面から紹介する機会となった。 ☆幅広い広報が必要。
和算講座研究編 6回・61人	【目的】 江戸時代の数学を学び、和算家の思考を知る。 【概要】 一関の和算家千葉胤秀の書『算法新書』等を使用して問題を解く。岩手県和算研究会との共催で実施し、講師は研究会会員。	○千葉胤秀の編著を通して和算の考え方について意見を交わしながら深く研究することができた。 ☆宮城県からの参加者もあり、参加が広域になっている一方で市内からの参加者が少ない。 ☆成果をまとめることが希望されている。

<p>重要文化財「大槻家関係資料」研究 報告会 「幕末の対外情勢と大槻家」 11月3日(日・文化の 日)・52人</p>	<p>【目的】 重要文化財「大槻家関係資料」に関する多様な研究成果を公表する。</p> <p>【概要】 ①講演「幕末の海外情報と大槻磐溪、大槻家」岩下哲典氏(東洋大学文学部教授) ②報告1「大槻玄沢とロシア」当館館長 ③講演2「大槻磐溪の開国論」当館職員</p>	<p>○幕末の対外情勢をテーマに大槻家の学者たちの関わりを紹介できた。 ☆遠方からの参加者もあり、幅広い周知が必要。</p>
--	---	--

## 2 体験学習

<p>事業名 期日・回数等・参加人数</p>	<p>目的と概要(主な内容)</p>	<p>成果と課題(○成果、☆課題)</p>
<p>はくぶつかんこどもくらぶ 2回・85人 (1)こどもくらぶスペシャル 5月4日(土)、5日(日) (2回)・83人 (2)和風ブックケースをつくろう 11月4日(月・祝)・2人</p>	<p>【目的】 当館の展示テーマに関連した体験を通して、歴史や当館の展示に親しんでもらう。</p> <p>【概要】 左記のとおり</p>	<p>○親子で博物館に親しむ機会となった。 ☆効果的な広報。</p>
<p>博物館でアートを楽しむー 点描で小粋なコースターを 作りましょうー 5月18日(土)(2回)・22 人</p>	<p>【目的】 市民に対し多様な美術体験の機会を提供し博物館に親しんでもらう。市内の美術団体との交流を図り、協力関係を築く。</p>	<p>○制作を通じて当館および展示内容に関心を持ってもらうことができた。市内の美術団体との交流を通じて、協力関係を築けている。 ☆講師の高齢化。</p>

事業名 期日・回数等・参加人数	目的と概要(主な内容)	成果と課題(○成果、☆課題)
	<p>【概要】</p> <p>いわい美術振興協会会員を講師として迎え、美術を楽しむ活動を展開。</p> <p>いわい美術振興協会との共催。</p>	
<p>第23回和算に挑戦</p> <p>12月1日(日)～1月20日(月)・応募者712人</p> <p>解答数983件</p>	<p>【目的】</p> <p>和算の問題を解くことで和算について理解を深める。</p> <p>【概要】</p> <p>岩手県和算研究会の協力を得て、和算の問題を現代風に直し、初級(小学生以上)、中級(中学生以上)、上級(高校生以上)の3題を出題。チラシやホームページ等で周知し、解答を募集。解答は郵送で提出していただき、共催・協力団体による審査の上、館長賞、岩手県和算研究会会長賞、優秀賞、和算博士賞を選定した。</p> <p>表彰式を開催し、参加者には「解答集」を配付した。応募状況や解答例はホームページで公開するほか、関連資料を「一関と和算」の展示室で紹介した。今回は第23回。</p> <p>共催:岩手県和算研究会/協力:一関地方教育研究会中学校数学部会、同小学校算数部会/後援:和算研究所、岩手県高等学校教育研究会数学部会</p>	<p>○多くの人に、和算を知ってもらう機会を提供でき、来館にも結びついている。この事業そのものが全国にも注目され、和算、一関の知名度アップにつながっている。</p> <p>○解答集は希望者に電子データで配布し好評であった。ただし、従来どおり冊子を希望する人の方が多い。</p> <p>☆参加者が減少傾向である。</p>

### 3 その他の交流連携（教育普及）活動

事業名 期日・回数等・参加人数	目的と概要(主な内容)	成果と課題(○成果、☆課題)
古文書ボランティア 4月から12月までの毎週 水曜日・14回 延べ40人	<p>【目的】 膨大にある未整理の古文書の整理を進める。</p> <p>【概要】 一関市古文書に親しむ会有志に下油田村小野寺家文書の整理作業を行っていただいた。</p>	<p>○着実に古文書整理を進めていただいている。</p> <p>☆一関古文書に親しむ会は、高齢化等により解散しており、新たな方法での参加者の確保が必要。</p>
えきえき連携事業 (1)8月1日(木) 博物館入館者 32人 (2)11月3日(日・祝) (参考) 博物館入館者 679人 道の駅巖美溪レジ利用者 1,655人	<p>【目的】 博物館を「学びの駅」とし、隣接する「道の駅巖美溪」との相互利用を促進する。</p> <p>【概要】 (1)道の駅巖美溪と連携し、餅つき大会、はくぶつかんクイズ、パズルに挑戦を実施した。 (2)道の駅「秋の大収穫感謝祭」会場に、博物館ブースを開設し、「建部清庵が紹介した飢饉を救う植物」紹介チラシを配布。顕彰会が清庵にちなんだ食品の販売や摘み草料理の試食を行った。 協力団体/清庵の里</p>	<p>○「学びの駅」博物館と「道の駅巖美溪」が隣接している地域の特性を活かし、特色のある事業を展開し、社会教育と地域産業の活性化の相乗効果が図られた。</p> <p>○地域の児童を対象に、地域の施設を活用して、地域の歴史や文化等を体験する機会を提供し、地域への愛着が醸成された。</p> <p>○野草料理の試食をすることにより野草料理レシピの配布も好評であった。</p> <p>☆博物館、道の駅それぞれの来館者が双方の施設を訪れるよう、人の流れや仕組みの検討が必要。</p>
はくぶつかんクイズ 71人	<p>【目的】 博物館に親しみながら、一関の歴史を学んでもらう。</p> <p>【概要】 希望者に開催中の企画展に関するクイズを配布し、クイズ回答者に記念品を配布した。</p>	<p>○年齢に関わらず興味を持って展示室をまわる機会となった。</p> <p>☆ヒントとなる資料が見つかる展示室内の他の資料を見ずに次の展示室へ向かってしまう参加者が見られた。</p>

<p>出前講座等</p>	<p>【目的】 各種団体等の生涯学習活動に 貢献する。</p> <p>【概要】 詳細別紙 (資料：来館対応・講師派遣等)</p>	<p>○生涯学習の要求に応えることが できた。学芸員と地域とのつな がりができ、他の事業にもよい 影響をもたらした。</p> <p>☆学芸員の時間調整が必要。</p>
--------------	--	---

### iii 資料収集・保存・貸与・管理等

事業名 期日・回数等・参加人数	概要(主な内容)	成果と課題(○成果、☆課題)
資料の受け入れ	寄贈 12件 431点 寄託 2件 2点 購入 6点 (『いちじくぞうし』『ほねがらみ』『築地八丁堀日本橋南絵図(江戸切絵図)』『かわらばん 黒船来航(仮題)』『葛西記』『救荒便覧』)	○収集方針に則った収集が図られている。 ○当館の活動が周知されてきたこともあり、収集方針に適合した資料寄贈の申し出が多い。 ☆収蔵庫の拡張・増設が急務。 ☆一括して寄贈された資料の整理を迅速に進めることが必要。
資料の修復	刀剣修復 1件 絵画等の修復 6点 (日本画5点、油彩画1点) 古文書修復 1点 合計 8点	○修復により、良好な状態での保存および展示が可能となった。
資料の貸出	他館への貸出等 ・平泉世界遺産センター「骨寺村荘園遺跡関連資料」3点 ※文化財課所管、当館保管 ※「柳之御所遺跡出土資料」18点を交換で当館展示借用 ・芦東山記念館 特別展「暦モノガタリ」13点	○他館の活動に協力した。また、当館とは別の切り口で所蔵資料を広く知らせることができた。
保存環境	公共施設等総合管理計画に基づき施設改修等を行い、資料の保存環境の維持改善を図った。 ・電動シャッター改修工事 ・空調設備改修工事 ・火災報知設備改修工事 ・電気設備改修工事	☆経年による老朽化により、温湿度調整が困難になりつつある。

	・空調設備電源改修工事	
<p>環境調査 展示・収蔵施設等の保存空間 環境測定 (1)8月6日～8月27日 (2)2月4日～2月21日</p>	<p>加害生物(昆虫)生息調査・浮遊菌調査・空調風速調査・温度湿度調査・粉塵調査・有機酸およびアンモニア濃度調査</p>	<p>○館内の環境を確認した。 (1)ではヒメマルカツオブシムシの幼虫、ヤマトゴキブリ、チャタテムシ類が捕獲された。収蔵庫前室、第1収蔵庫と第2収蔵庫にて浮遊菌、一部のケースにおいて酢酸の存在が示される結果となった。(2)ではシミ科の昆虫がエントランスホールで捕獲された。一部のケースにおいて酢酸とアンモニアの存在が確認された他、温湿度については1日に4回程度小刻みな変動を繰り返していることが確認された。 ☆清掃、温湿度管理、酢酸・アンモニアの除去、環境調査を継続することが必要。</p>
<p>施設燻蒸等 12月6日～12月13日 「一関のあゆみ」展示室および企画展示室</p>	<p>館内において、燻蒸、および塵埃等の除去と除菌を実施し資料の安全な保存に資する。</p>	<p>○「一関のあゆみ」展示室および企画展示室の燻蒸を実施し、加害虫および菌の死滅を確認した。 ○収蔵庫のクリーニングを実施した。</p>
<p>収蔵品管理システムの運用</p>	<p>収蔵品のデータベース化を促進し、運用を図る。</p>	<p>○博物館ホームページの館蔵品検索で、収蔵品の一部を公開している。 ☆職員の繁忙のため、入力作業に時間がさけていない。</p>

#### iv 調査研究活動

事業名 期日・回数等・参加人数	概要（主な内容）	成果と課題 （○成果、☆課題）
調査研究	「地域の歴史研究」「舞草 刀・奥州刀の研究」「大槻玄 沢と蘭学の研究」「大槻文彦 と言海の研究」「一関と和算 の研究」「地域の美術工芸の 研究」「博物館研究」等	○研究成果を研究報告や展覧会、交流 連携活動に反映させた。 ☆研究時間の確保。
一関市博物館研究報告（第28 号）の発行 令和7年3月発行・500部	『安永風土記』にみる仙台 領西岩井一 一八世紀中後期 の地域社会 一」ほか計5本 の論考を収録、関係機関に配 付	○研究成果をまとめて公表できた。 ☆継続および充実が必要。
骨寺村荘園遺跡村落調査研 究 (1)研究報告会 1回 2月16日(日)・47人 (2)報告書の発行 令和7年3月発行・300部	調査研究報告会の開催、報告 書の刊行 研究報告会 ①経塚と本寺 菅田慶信氏 ②駒形根神社境内出土の鉄 磬 畠山篤雄氏 ③近世本寺の年貢 当館館 長 ④近世・近代における本寺の 書籍と文化 竹原万雄氏 報告書 上記報告会の内容	○2月に調査研究報告会を開催、参加者 47名。 ○報告書は執筆者4名、300部を3月に 刊行。 ☆新規の資料がなく研究は停滞気味。 7. 8年度は、報告書は発行せず9年 度に発行予定。
古文書等資料調査 (1)古文書資料	古文書の整理・目録のデータ ベース化 ・大町佐藤家文書 ・千厩町千葉家文書 ・花泉小野寺家文書	○整理・目録作成が進展した。 また、調査内容が展覧会等の充実に関 び付いている。 ☆一関古文書に親しむ会(令和6年解 散)会員によるボランティア、千厩古 文書に親しむ会の活動の一環として 実施しているため、量をこなすこと ができない。整理が必要な文書は数

事業名 期日・回数等・参加人数	概要（主な内容）	成果と課題 （○成果、☆課題）
(2)美術資料	美術作品および資料ならびに作家とその周辺に関する調査 ・福井良之助関連調査 ・佐藤紫煙資料調査 ・その他地域の近現代美術家に係る文献調査および情報収集	多く、また所有者も高齢化していることから、推進力を高めるために新たな方策が必要となっている。

## V 大槻家資料保存活用事業

令和5年6月27日付で重要文化財に指定された大槻家関係資料について、修復、研究、公開を計画的に実施するもの。

令和6年度は、修復計画の作成により文化庁の補助金を受け2点を修復した。

また、研究報告会を開催し、講演会と当館職員による研究報告を行った。

事業名	概要（主な内容）	成果と課題（○成果、☆課題）
資料の修復	「塵積成山 第一冊 丙申集 如蘭号」「松平齊民扁額（愛古堂）」 2点を文化庁の補助金を受け修復。	○修復により、良好な状態での保存および展示が可能となった。
重要文化財「大槻家関係資料」研究報告会 「幕末の対外情勢と大槻家」 11月3日（日・文化の日）・52人	重要文化財「大槻家関係資料」に関する研究成果を公表した。 ①講演「幕末の海外情報と大槻磐溪、大槻家」岩下哲典氏（東洋大学文学部教授） ②報告1「大槻玄沢とロシ	○幕末の対外情勢をテーマに大槻家の学者たちの関わりを紹介した。 ☆遠方からの参加者もあり、幅広い周知が必要。

事業名	概要（主な内容）	成果と課題 （○成果、☆課題）
	ア」当館館長 ③講演2「大槻磐溪の開 国論」当館職員	
その他	当館編により『学問の家 大槻家の人びと』を吉川 弘文館より刊行(11月1日 刊行)	○一般向けではありながら、今後の研 究にも役立つと評価されている。

## vi 広報活動

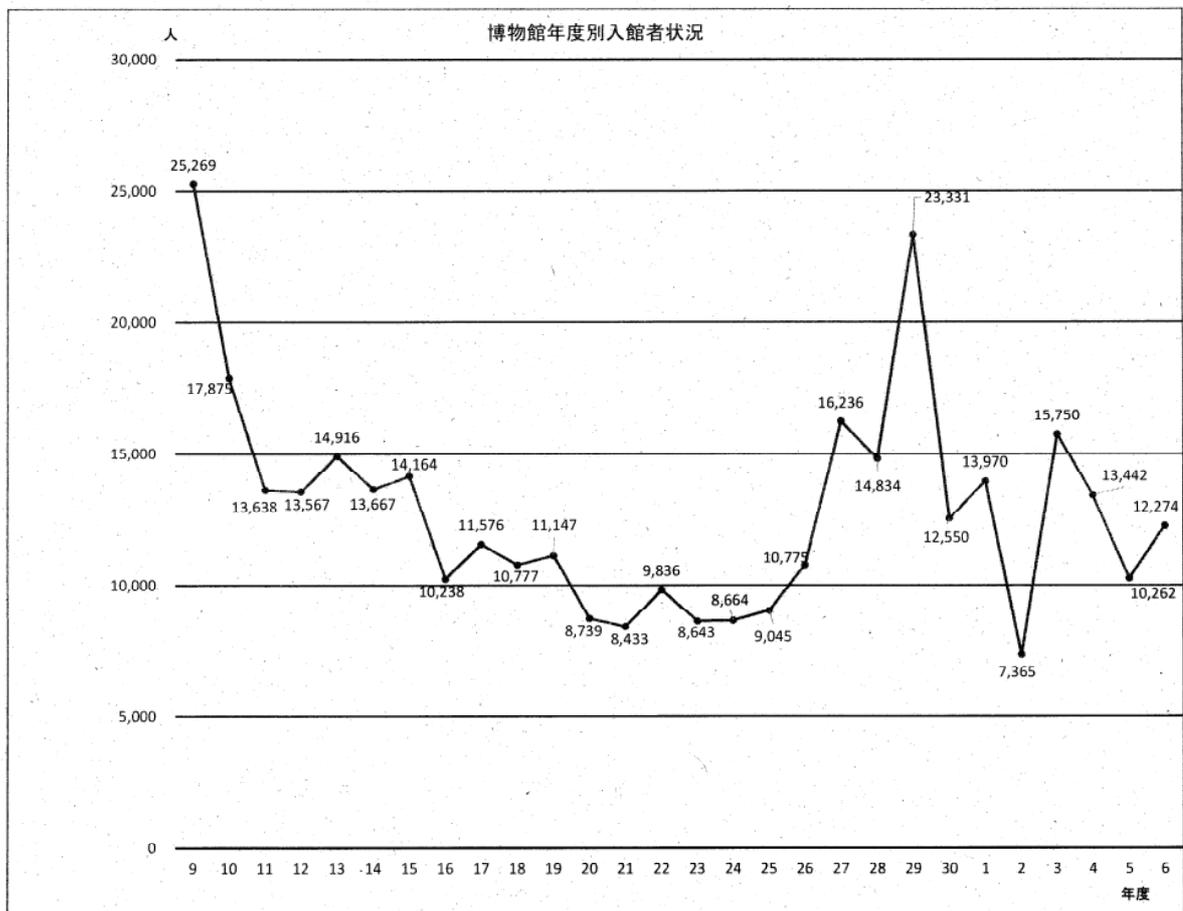
事業名	概要（主な内容）	成果と課題（○成果、☆課題）
博物館年間行事予定表の配付	市内全戸配布（広報掲載）	○市民に広く年間行事情報を提供した。 ○来館者に年間行事情報を提供した。 ☆配布時期を早める方法の検討。
博物館ホームページの運営	事業紹介、休館のお知らせ	○行事案内をはじめ博物館情報をすみ やかに提供した。 ☆更に効果的な情報発信方法の検討。
博物館情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種ポータルサイトへの 情報提供</li> <li>・博物館だより（月1回市広 報活用）</li> <li>・市ホームページ、 Facebook、LINE</li> <li>・新聞、FMあすも、一関テ レビの活用</li> <li>・各種情報誌への掲載</li> <li>・一関図書館において展覧 会のPR動画を上映</li> </ul>	○適宜、博物館情報の提供に努めた。 ☆更に効果的な提供方法の検討。

## vii その他

- ・展示ケースの金具等の交換
- ・空調設備改修（第一収蔵庫PAC修繕、収蔵庫用計測モジュールオーバーホール、CDP-1盤電源モジュール交換）

### Ⅲ 資料

#### 1 入館者統計



## 2 講師派遣等状況

### (1) 来館対応

#### ① 展示解説等（学校関係）

No.	月	日	学 校 名	人数
1	6	13	一関小学校 3年生	99
2	7	31	不来方高校 2年生	5
3	8	28	山目小学校 6年生	82
4	10	30	中里小学校 6年生	39
5	11	14	舞川小学校 6年生	13
6	11	15	南小学校 3年生	67
7	1	30	舞川小学校 3年生	12
8	2	4	萩荘小学校 3年生	48
9	2	12	巖美小学校 3年生	10
10	2	14	巖美小学校 4年生	17
合計				392

#### ② 展示解説等（各種団体）

No.	月	日	事 業 名	人数
1	4	3	一関市新採用職員研修	52
2	5	1	一関市教育委員会初任者研修会	26
3	5	16	巖美人生大学（巖美市民センター）	19
4	7	17	萩荘ふるさと大学（萩荘市民センター）	29
5	7	18	新風景・浄土と童話の世界	16
6	7	19	東北MUCC生コン技術会青森支部	15
7	7	19	萩荘ほのぼのサロン	9
8	7	25	巖美人生大学（巖美市民センター）	16
9	7	26	歴史紀行岩手県絶景めぐり	13
10	7	26	学びの土曜塾（涌津市民センター）	21
11	8	9	巖美3区元気いきいき教室	11

No.	月	日	事業名	人数
12	9	25	萩荘ふるさと大学（萩荘市民センター）	28
13	10	17	巖美人生大学（巖美市民センター）	13
14	11	6	老松市民センター	26
15	11	14	川崎・東山地域統計調査員協議会	19
16	11	14	遠野市統計調査員協議会	20
17	11	20	栗原歴史隊	5
18	11	22	田尻民生委員児童委員協議会	24
19	1	15	平泉町議会・奥州市議会・一関市議会議員交流会	61
20	1	30	巖美人生大学（巖美市民センター）	10
21	3	28	一関文化会議所 一関ふるさと子ども探検隊	23
合計				456

## (2) 講師派遣

### ① ことばの先人講師（出前授業）

No.	月	日	対象	内容	人数
1	11	21	南小学校 3年生	大槻玄沢・大槻文彦	67
2	11	28	一関小学校 6年生	大槻玄沢・大槻文彦	99
合計					166

### ② 講師派遣（各種団体）

No.	月	日	事業名	人数
1	4	24	一関地区保護司会東分区自主研修会（芦東山の和歌の一端）	36
2	5	16	川崎町づくり協議会川崎学チーム（浪分神社の算額について）	7
3	6	4	舞川7区・8区いきいきサロン（和算家千葉胤秀の生涯と舞川地区の和算について）	15
4	8	29	室蓬カレッジ歴史専門講座（大原市民センター）	17
5	10	19	東北地区和算研究交流大会（和算と一関）	25
6	1	17	岩手県獣医師会一関支会（大槻玄沢と蘭学―動物へのまなざし―）	21
合計				121

(3) 参考：学校等自由見学

No.	月	日	事業名等	人数
1	9	20	室根小学校 3年生	25
2	10	2	磐井中学校 1年生	57
3	11	21	花泉小学校 3年生	75
4	1	28	赤荻小学校 3年生	49
5	2	18	山目小学校 3年生	95
合計				301

(4) 参考：講座・体験学習・その他の交流連携事業の合計

講座	体験学習	その他	合計
428	819	1,278	2,525

令和 7 年度

# 事業の取り組み状況

## 目 次

I	展示活動	
1	常設展示	1
2	特別展	1
3	企画展	3
II	交流連携（教育普及）活動	
1	講座	7
2	体験学習	10
3	その他の交流連携（教育普及）活動	11
III	資料収集・保存・貸与・管理等	11
IV	調査研究活動	12
V	大槻家資料保存活用事業	13
VI	広報活動	13
VII	その他	13

## 令和7年度事業の取り組み状況

※ 当初計画を記し、7月10日現在の情報を補記した。

### I 展示活動

#### 1 常設展示

##### 常設展示室

###### 【目的】

- (1) 地域の歴史と文化を多様な資料により系統的に展示し、広く生涯学習の推進・充実に寄与する。

###### 【内容】

- (1) 「一関のあゆみ」「舞草刀と刀剣」「玄沢と蘭学」「文彦と言海」「一関と和算」の5テーマおよび昔の道具の展示。研究成果に基づき、随時展示替えを行う。
- (2) 長沼守敬に関する展示  
明治時代から大正時代にかけて活躍した一関出身の彫刻家 長沼守敬を顕彰するための展示。エントランスホールにパネルを展示（通年）。

#### 2 特別展

##### 特別展 「千葉胤秀生誕250年記念 算額の世界」

###### 【趣旨】

算額は、日本古来の数学である和算を学んだ人々が、数学の問題を書き人々の集まる寺社に奉納した絵馬の一種です。一関市内には、市町村単位では全国最多の67点の算額が現存しており、一関藩の算術師範役・千葉胤秀やその門人らにより、和算が大変盛んであったことを端的に示している。

学力向上の祈願のためや師匠の慶事の記念としてなど、算額奉納の目的はさまざまでしたが、寺社に掲額されることで研究発表としての一面もありました。数学の実力を世間に知らしめることとなり、解法競争も行われるなど、算額は、我が国で和算が発展する原動力の一つとなった。

本展では千葉胤秀の生誕250年を記念して、現存する各地の算額を紹介するとともに、数学模型など和算に関連した資料を交えて、江戸時代の人々を魅了した算額の世界を俯瞰す

る。

【開催期間】 令和7年9月13日(土)～11月16日(日)

【開催日数】 56日間

【展示概要】

現存算額数の多い福島県、岩手県、埼玉県、宮城県の算額により多様な内容を紹介するとともに、和算家の肖像、道具、書籍等から、算額が千葉胤秀の生涯や和算の発展にどのように関わっているかを紹介する。

(展示構成案)

I. 算額を奉納した和算家たち

①算額にみる和算家

②代表的な和算家

II. 算額の数々

①各地の算額・・・

現存最古の算額、埼玉県、福島県、岩手県(市外)の算額

②一関市内の算額

III. 記録された算額

①全国の算額の記録／②算法論争／③千葉胤秀が記録した算額／

④算額を奉納するまで—明治34年観福寺算額の場合／⑤山口和の旅日記から

IV. 算術の道具・・・数学模型(重要文化財)ほか

V. 算額を受け継ぐ

【関連行事】

(1) 講演会

「奇跡の邂逅(かいこう)から生まれた小説

～千葉胤秀が江戸の数学道場に入るきっかけとなった山口和との出会い～」

講師： XXXXXXXXXX

日時： 10月5日(日) 13:00～15:00

定員： 100名

(2) シンポジウム

「和算と数学の世界」

日時： 10月12日(日) 13:00～16:30

記念講演「文化史から見た和算」 上野健爾氏(京都大学名誉教授)

報告① 「関孝和と関流の和算」 佐藤賢一氏(電気通信大学教授)

報告② 「関流和算の集大成『算法新書』」

菅原 通氏(岩手県和算研究会会長)

(3) 演奏会

「歯車music 音楽と数学の不思議な関係」

日時：11月15日(土) 13:30~15:00

演奏者：[REDACTED]

定員：50人

(4) 算額見学会

日時：10月13日(月・祝) 9:00~16:00 博物館集合・解散

定員：15名

(5) 展示解説会

日時：9月21日(日) 13:30~14:10

10月5日(日) 15:10~16:00

11月2日(日) 13:30~14:10

11月16日(日) 13:30~14:10

(6) 館長講座

「藩の学校・養賢堂と教成館」 菊池勇夫(当館館長)

日時：9月28日(日) 13:30~15:00

定員：50名

### 3 企画展

#### 企画展1 「暮らしのなかの道具」

##### 【趣 旨】

一関周辺で使われたむかしの道具について紹介する。

【開催期間】 令和7年1月25日(土)~5月18日(日) ※令和6年度からの継続開催

【開催日数】 98日間(令和7年度分は42日間)

【入館者数】 3,315人(33.8人/日)

令和7年度分 1,687人(40.2人/日)

##### 【展示概要】

- ・導入(昭和のレコード、ホーロー看板、デパート広告)
- ・昭和の生活道具(炊事、洗濯、ラジオ、テレビ、バリカン、カメラなど)自由導線
- ・ある日の六畳間(ちゃぶ台、茶箆筒、白黒テレビなどを配置し、六畳間を再現)

展示資料数 約161点

## 【関連行事】

### (1) 展示解説会

日時および参加者（令和7年度分）

4月29日（火・祝）	13：30～14：10	9人	
5月4日（日・祝）	13：30～14：10	8人	
5月5日（月・祝）	13：30～14：10	11人	
5月11日（日）	15：10～15：50	1人	
5月17日（土）	13：30～14：10	5人	
5月18日（日）	13：30～14：10	11人	計 45人

解説：当館学芸員

### (2) 館長講座 「餅の文化史」

講師：菊池勇夫（当館館長）

日時：5月11日（日） 13：30～15：00 11人

## 企画展2 「〇こけし店主Y氏の愛した昭和のこけしコレクション」

### 【趣 旨】

市内で営まれていたこけし店の店主が心を寄せ、子息が収集した「伝統こけし」。寄贈を受けた約400点を初公開する。

かつて、JR一ノ関駅前にあった「尾張屋こけし店」。こけしを主体に、民芸品や骨董品、土産物を販売していた。店主は明治生まれの横地省三氏。こけしへの思い入れはひとしおで、造詣も深く、その世界で名が知られていた。

省三氏の子息、横地儀房氏は数多くのこけしを収集した。昭和時代に東北地方で作られた「伝統こけし」がほとんどを占め、そこには一関の工人の作もある。中には、明治時代の一関に生まれた宮本永吉の作、また、後継者がいなかった永吉の型が途絶えるのを惜しんで、省三氏が鳴子の工人 秋山忠市に復元を依頼して作られたこけし、さらに、省三氏自らが永吉のこけしを手本に作った模作も含まれる。儀房氏によるこけしコレクション約400点は、令和6年に一関市博物館へ寄贈された。

さて、古くから東北地方で作られてきたこけしは、われわれにとって親しみ深い存在である。これまでに巻き起こった「こけしブーム」も手伝って、東北地方のみならず全国には老若男女のこけしファンが大勢いる。

一関市では「東北地方こけしコンクール」を昭和36年から49年まで開催していた。そのねらいは、みちのくの風土に生まれたこけしを市民へ紹介するとともに、観光・

産業の振興に寄与することであった。出品されたこけしの審査に加え、即売もして、大いに賑わった。

土産物であり、今では美術的価値の高い工芸品として、また、地域の歴史や文化、産業や観光の振興に関わる品としての側面も有し、往時は子どもの玩具であった「こけし」。本展は、横地儀房氏寄贈のこけし全点を初公開し、古くから人々の心を捉えてきたこけしの魅力に改めて触れていただく機会とするものである。

【開催期間】 6月21日（土）～8月17日（日）

【開催日数】 50日間

【展示概要】

横地儀房氏寄贈のこけし等（こけし、いずめこ・ねまりこ、こけし絵、書籍） 403点

関連資料

岩手日日新聞記事（パネル） 23枚

書籍 7点（うち横地儀房氏寄贈 2点）

こけし 2点

記録映像 1点

【関連行事】

(1) 講演と対談 楽しみのこけし

講師：青野由美子氏（カメイ美術館学芸員）

日時：6月22日（日） 13：30～15：00 20人

(2) 展示解説会

日時：7月6日（日） 13：30～14：10 21人

8月3日（日） 13：30～14：10

(3) 館長講座 「旅人のみた一閃・山目 ー他者の観察眼ー」

講師：菊池勇夫（当館館長）

日時：7月20日（日） 13：30～15：00

定員：50名

(4) 博物館でアートを楽しむ「こけし絵」をかいてみよう

講師：いわい美術振興協会

日時：8月2日（土） 午前の部 9：00～12：00

午後の部 13：00～16：00

定員：各回15名（小学4年生以上）

### 企画展3「村の学びと楽しみ 一本寺肝入の蔵書から」

#### 【趣 旨】

村の肝入の家では、教養書から実用書まで、さまざまな種類の本を集めて、生活に活かしていた。それらの蔵書は村の内外に貸し出され知識が広まった。一関市巖美町本寺の肝入の家に伝えられた書籍類から、村の文化と教養を探る。

【開催期間】 1月24日（土）～3月22日（日）

【開催日数】 50日間

【展示概要】 展示構成案

- I 本寺と要害屋敷佐藤家
- II 村の学び（和算書、医学書、漢籍、手習い、天気等）
- III 村の楽しみ（料理書、謡本、観光、立華等）
- IV 蔵書をめぐる村の交流

#### 【関連行事】

(1) 講演会 「近世・近代における本寺の書籍と文化」

講師：竹原万雄氏（尚綱学院大学准教授）

日時：2月22日（日） 13：30～15：00

定員：100名

(2) 展示解説会

日時：2月1日（日） 13：30～14：10

2月22日（日） 15：10～16：00

3月15日（日） 15：10～16：00

(3) 館長講座「地域社会の文化力」

講師：菊池勇夫（当館館長）

日時：3月15日（日） 13：30～15：00

定員：50名

## II 交流連携（教育普及）活動

### 1 講座

#### (1) 館長講座（再掲）

##### 【目的】

当地域に関わる館長の研究の一端をわかりやすく紹介する。開催中の展覧会に合わせたテーマを設定し、展示への関心を高める。

##### 【内容等】

① 「餅の文化史」

日時：5月11日（日） 13：30～15：00 11人

② 「旅人のみた一関・山目 ―他者の観察眼―」

日時：7月20日（日）13：30～15：00

③ 「藩の学校・養賢堂と教成館」

日時：9月28日（日）13：30～15：00

④ 「地域社会の文化力」

日時：3月15日（日）13：30～15：00

【対象・定員】 各回一般50人

#### (2) 超初心者のための絵の見方

##### 【目的】

美術に関心はあっても「知識がないから楽しめないような気がする」「美術館や博物館に行きたいが気後れする」という鑑賞初心者には、作品鑑賞の楽しさを伝える。

##### 【内容等】

学芸員と一緒に館蔵作品を見て楽しむ。

講師：当館学芸員

日時および参加者数 日本画・洋画編 7月19日（日）10：30～11：30

版画編 8月16日（日）10：30～11：30

【対象・定員】 各回一般10名程度

#### (3) 古文書初心者講座

##### 【目的】

はじめて古文書を学ぶ人を対象に、江戸時代の古文書を教材としてくずし字や古文書の基礎知識を学ぶ連続講座。

##### 【内容等】

日時：7月20日・8月24日・9月28日（いずれも日曜日）10：30～12：00

講師：菊池勇夫（当館館長）

【対象・定員】 一般24人

#### (4) 古文書講座

##### 【目的】

当館所蔵の古文書を解説して、江戸時代の古文書の解説の仕方や、そこからわかる歴史について学ぶ連続講座。

##### 【内容等】

日時：10月4日・10月18日・11月1日（いずれも土曜日）13：30～15：00

講師：当館学芸員

【対象・定員】 一般24人

#### (5) 和算講座 入門編

##### 【目的】

和算の基本や歴史についてわかりやすく解説する講座。

##### 【講座内容】

##### ① 「生誕 250 年千葉胤秀」

日時：7月26日（土） 13：30～15：00

講師：当館学芸員

##### ② 「和算書のベストセラー『塵劫記』と岩手」

日時：8月9日（土） 13：30～15：00

講師：菅原 通氏（岩手県和算研究会会長）

##### ③ 「和算書の読み方」

日時：8月23日（土） 13：30～15：00

講師：千葉秀昭氏（岩手県和算研究会）

【対象・定員】 各回一般24人

#### (6) 和算講座 研究編

##### 【目的】

一関出身の和算家千葉胤秀が編集した『算法新書』を通して和算を学ぶ連続講座。

##### 【内容等】

日時：5月17日、6月14日、7月26日、8月23日、9月20日、11月1日

（いずれも土曜日）10：30～12：00

参加延人数：18人（2回目まで）

講師：岩手県和算研究会

【対象・定員】 一般24人

### (7) 紙の文化史 入門編

#### 【目的】

和紙や洋紙など身のまわりにある紙について、科学的な特徴や歴史を解説する連続講座。

#### 【内容等】

① 紙とは何か

日時：6月29日（日）10：30～12：00 3人

② 和紙と洋紙

日時：7月13日（日）10：30～12：00

講師：当館学芸員

【対象・定員】 一般24人

### (8) 重要文化財「大槻家関係資料」研究報告会 「言葉と辞書」

#### 【目的】

国の重要文化財に指定された当館所蔵「大槻家関係資料」並びに学問の家大槻家に関する最新の研究成果を報告する。

7年度は、「言葉と辞書」をテーマとする。

#### 【内容等】

日時：11月3日（月・文化の日）13：00～16：00

講演：「日本辞書『言海』」

講師：田鍋桂子氏（明海大学准教授）

当館職員による研究報告

① 「大槻文彦の辞書編纂」

② 「翻訳語と大槻玄沢」

【対象・定員】 一般100人

## 2 体験学習

### (1) はくぶつかんこどもくらぶ

当館の展示テーマにちなむ体験学習。

#### 【目 的】

気軽に楽しめる体験やパズル、簡単な工作を通して、歴史や当館の展示に親しむ。

#### 【内 容 等】

##### ① こどもくらぶスペシャル

日時：5月4日（日・祝）・5月5日（月・祝）、10：00～15：00 随時受付

参加延人数：87人

##### ② 江戸時代のうつし絵をつくろう

日時：8月10日（日） ①10：00～10：30 ②11：00～11：30

③13：30～14：00 ④14：30～15：00

定員：各回10組程度

### (2) 博物館でアートを楽しむ「こけし絵」をかいてみよう（再掲）

#### 【目 的】

市民に対し多様な美術体験の機会を提供し博物館に親しんでもらう。市内の美術団体との交流を図り、協力関係を築く。

#### 【内 容 等】

いわい美術振興協会会員を講師として迎え、美術を楽しむ活動を展開。

いわい美術振興協会との共催。

企画展「〇こけし店主Y氏の愛した昭和のこけしコレクション」に関連した催し。

講師：いわい美術振興協会、当館学芸員

日時および参加者：8月2日（土）

午前の部 9：00～12：00

午後の部 13：00～16：00

#### 【対象・定員】

定員：各回15名

対象：小学4年生以上

### (3) 第24回 和算に挑戦

#### 【目 的】

和算の問題を解くことで和算について理解を深めてもらう。

#### 【内容等】

算額や和算書の中から初級、中級、上級の3段階で問題を提示し、解法を募る。

実際に問題を解くことにより、和算のレベルを体感するとともに、難問に挑戦した和算家の心情を迫体験してもらう。岩手県和算研究会と共催。

日時：12月1日（月）から1月20日（火）まで解答を募集。

表彰式：3月8日（日）13:30～15:00

【対象・定員】 特に限定しない

### 3 その他の交流連携活動

- (1) 古文書整理ボランティア
- (2) ことばの先人授業

## Ⅲ 資料収集・保存・貸与・管理等

- (1) 資料の受け入れ(寄贈・寄託)
- (2) 資料の修復
  - ・ 刀剣等の修復
  - ・ 絵画等の修復
  - ・ 古文書等の修復
- (3) 他館の展示への資料の貸し出し
- (4) 環境調査
- (5) 施設燻蒸

## IV 調査研究活動

### (1) テーマ

調査研究テーマ	個別研究名称
地域の歴史研究	(1) 古代・中世の東北地方に関する研究 (2) 中世から近世にかけての葛西氏の動向 (3) 石造物の研究 (4) 藩制の研究
舞草刀・奥州刀の研究	舞草刀・奥州刀の基礎的研究
大槻玄沢と蘭学の研究	在村蘭学者の資料研究
大槻文彦と言海の研究	幕末明治期における大槻家
一関と和算の研究	一関地方の和算関係資料の調査
地域の美術工芸の研究	一関ゆかりの作家たち
博物館研究	博物館における展示および教育普及活動等の研究

### (2) 一関市博物館研究報告（研究紀要）の発行

第29号の発刊 A4判

### (3) 骨寺村荘園遺跡村落調査研究

骨寺村荘園遺跡を核とした伝統的な村落の姿を多角的な視点から調査研究し、成果を蓄積する。

（仮称）骨寺村荘園遺跡村落調査研究報告会

日 時：12月～3月の間、全1回

報告者：村落調査研究事業調査研究協力者および当館職員

定 員：50人

### (4) 古文書等資料調査

古文書未整理資料の整理、目録のデータベース化。

美術資料の写真撮影、整理、調査カードの作成、データベース化、作家およびその周辺の文献調査等。

## V 大槻家資料保存活用事業

令和5年に重要文化財に指定された大槻家関係資料について、修復、研究、公開を計画的に実施するもの。

- 文化庁の補助金を受けて、重要文化財2点の修復を予定。

研究報告会「言葉と辞書」の開催。

日時：11月3日（月・文化の日）13:00～16:00

講演：「日本辞書『言海』」

講師：田鍋桂子氏（明海大学准教授）

当館職員による研究報告

- ① 「大槻文彦の辞書編纂」
- ② 「翻訳語と大槻玄沢」

定員：一般100人

## VI 広報

- ・ 年間行事案内の配布（年度当初）
- ・ 博物館だより（企画展特集）の配布
- ・ 市広報「博物館だより」コーナーによる情報の発信
- ・ 一関市博物館ホームページの随時更新による最新情報の提供
- ・ 一関市ホームページ「イベントカレンダー」による情報の提供
- ・ 新聞、FMあすも、一関テレビの活用
- ・ 市公式Facebook、LINEによる情報発信
- ・ 各種情報誌への掲載

## VII その他

- ・ スマートフォン、タブレット等の展示解説アプリケーションを利用した展示解説の多言語化

体験学習

はくぶつかんこどもくらぶ

当館の展示テーマにちなむ体験学習。親子で楽しもう。

1 こどもくらぶスペシャル

気軽に楽しめる体験やパズル、簡単な工作ができます。大人の方もどうぞ。

体統/昔の遊び、智慧の板、骨寺村絵図パズル

工作/不思議なコップ etc

日時/5月4日⑩、5日⑩ 10:00~15:00 随時

申込不要 材料が無くなり次第終了

人数を制限する場合があります

2 江戸時代のうつつし絵をつくろう

日時/8月10日⑩ ①10:00~10:30 ②11:00~11:30

③13:30~14:00 ④14:30~15:00

ご希望の時間にお申込み下さい。

持ち物/なし 汚れてもいい服装でお越しください。定員各回 10名程度 参加料 100円 電話申込必要

博物館でアートを楽しむ

「こけし絵」をかいてみよう(再掲)

博物館に親しんでいただくために、美術体験を楽しんでもらおうという催しです。

いつい美術振興協会会員を講師に迎えます。

日時/8月2日⑩ 午前の部 9:00~12:00

午後の部 13:00~16:00

定員各回 15名(小学4年生以上) 参加料 100円

電話申込必要

和算に挑戦

日本の数学・和算の問題を解いてみよう。初級、中級、上級の問題の解答を募集します。

日程/12月1日⑩に問題と応募要領を発表、

郵送で解答を受け付けます。

締め切り/1月20日⑩ 消印有効

表彰式/3月8日⑩ 13:30~15:00

応募者には3月末日までに解答集をお送りします。



一関八幡神社 算額(後元)

このマークは小学生も参加可能な行事です。 ※その他、行事に関する詳細はご問合せください。

入館料

区分	料金	団体(20人以上)
中学生以下	無料	無料
高校生・大学生	200円	1人につき160円
一般	300円	1人につき240円

※65歳以上の一関市民の方(証明書等提示)と障がい者・介護者の方(身体障害者手帳等提示)は免除されます。

共通入場券

有効期間	料金	対象施設
1年間	1,000円	一関市博物館 戸東山記念館 石と興治のミュージアム 大蔵キリシタン殉教公園
10日間	500円	

入館無料日

企画展・特別展の初日、国際博物館の日5/17⑩、18⑩、開館記念日とその前後の日⑩の10/4⑩、5⑩、10⑩~12⑩、東北文化の日10/25⑩、26⑩、文化の日11/3⑩は無料。

休館日

毎週月曜日(祝日の場合は翌日)

資料整理のための休館日 12/1⑩~12/19⑩、

年末年始 12/29⑩~1/3⑩

この「年間行事案内」に対するご問合せ、参加申込みは、一関市博物館まで <https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/museum/>

一関市博物館 検索



常設展示

通史展示

■一関のあゆみ 過去から未来への展望

原始・古代から現代まで、地域の歴史の流れと特色を紹介します。中世荘園骨寺村に関する資料もブースを設けて展示しています。

テーマ展示

1 舞草刀と刀剣 日本刀の源流・舞草刀

日本刀の源流・舞草刀の究明を目指す展示です。日本刀の系譜・実用性・美的価値などを全国的視野に立って系統的に紹介します。

2 玄沢と蘭学 蘭学者大槻玄沢の業績

一関藩医連部清庵を師とし、江戸で蘭学の第一人者となった大槻玄沢の生涯と、わが国の近代科学の形成に果たした役割を紹介します。

3 文彦と言海 近代的国語辞典の著者

わが国最初の本格的国語辞典『言海』の著者大槻文彦の人と業績について紹介します。

4 一関と和算 和算隆盛の地一関

一関地方が全国的にも和算隆盛の地であったことを、千葉胤秀とその門弟の活躍を通して紹介します。ゲームで和算を体験することもできます。

●長沼守敬

明治時代に活躍した一関出身の洋風彫刻家、長沼守敬について紹介します。

展示解説アプリ「ポケット学芸員」を導入しています。

ダウンロードはこちらから▼

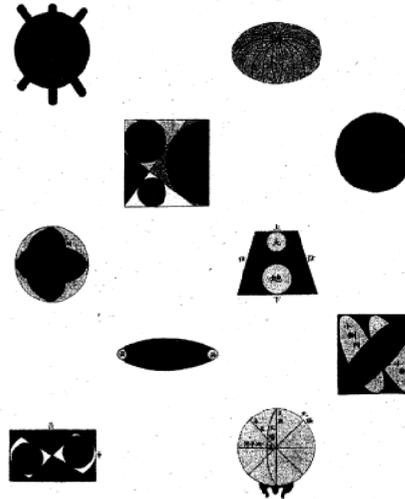


特別展

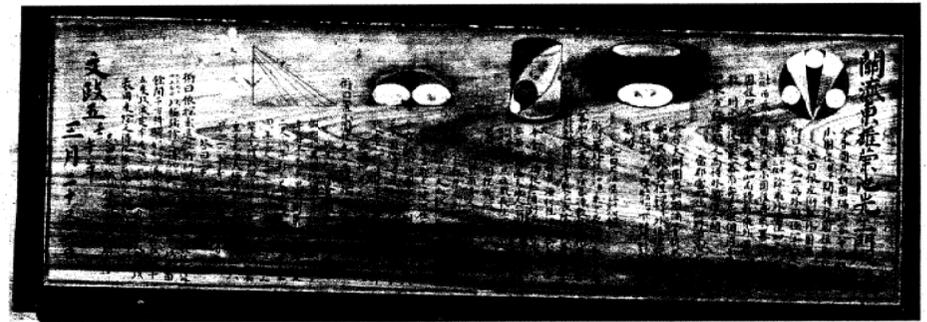
千葉胤秀生誕 250年 算額の世界

会期 9月13日⑩~11月16日⑩

入館無料日 9月13日⑩(開館初日)、10月4日⑩、5日⑩、10日⑩、11日⑩、12日⑩(開館記念日) 10月25日⑩、26日⑩(東北文化の日)、11月3日⑩(文化の日)



千葉胤秀



浪分神社算額(一関市川島町)【一関市指定文化財】

予定が変更となる場合があります。最新の情報は、当館ホームページまたはお電話にてご確認ください。

特別展

千葉胤秀生誕 250 年

算額の世界

一関藩の算術師範役・千葉胤秀やその門人らにより、一関市内には、全国一を誇る算額(数学絵馬)が残っています。各地の算額を紹介するとともに、数学模型など算額に関連した資料を交えて、人々を魅了した和算の世界を紹介しします。

■会期

9月13日㊥～11月16日㊥

■入館無料日

9月13日㊥(展覧会初日)
10月4日㊥、5日㊥、10日㊥、11日㊥、12日㊥(開館記念日)
10月25日㊥、26日㊥(東北文化の日)
11月3日㊥(文化の日)

【関連行事】

■講演会

奇跡の邂逅(かいこう)から生まれた小説
～千葉胤秀が江戸の数学道場に入るきっかけとなった山口和との出会い～
日時/10月5日㊥ 13:30～15:00
講師/鳴海 風氏(作家)
定員100名 参加無料 電話申込必要

■シンポジウム 和算と数学の世界

日時/10月12日㊥ 13:00～16:30

●記念講演 文化史から見た和算

講師/上野健爾氏(京大名誉教授)

●報告① 関孝和と関流の和算

講師/佐藤賢一氏(電気通信大学教授)

●報告② 関流和算の集大成『算法新書』

講師/菅原 通氏(岩手県和算研究会会長)

定員100名 参加無料 電話申込必要

■演奏会 齒車 music 音楽と数学の不思議な関係

日時/11月15日㊥ 13:30～15:00

演奏者/岡 淳氏(音楽家)

定員50名 参加無料 電話申込必要

■算額見学会

日時/10月13日㊥㊦ 9:00～16:00

定員15名 参加無料(但し昼食代負担)

電話申込必要(受付開始9月13日㊥)

博物館集合・解散

■展示解説会

日時/9月21日㊥ 13:30～14:10

10月5日㊥ 15:10～16:00

11月2日㊥ 13:30～14:10

11月16日㊥ 13:30～14:10

入館料必要、申込不要

企画展

企画展

1 暮らしのなかの道具

～5月18日㊥

入館無料日 5月17日㊥、18日㊥

一関周辺で使われたむかしの道具について紹介しします。

【関連行事】

■展示解説会

日時/4月29日㊥㊦ 13:30～14:10

5月4日㊥㊦ 13:30～14:10

5月5日㊥㊦ 13:30～14:10

5月11日㊥ 15:10～15:50

5月17日㊥ 13:30～14:10

5月18日㊥ 13:30～14:10

入館料必要、申込不要



炊飯器

企画展

2 〇こけし店主Y氏の愛した

昭和のこけしコレクション

～6月21日㊥～8月17日㊥

入館無料日 6月21日㊥

市内で営まれていたこけし店の店主が心を寄せ、子息が収集した「伝統こけし」。寄贈を受けた約400点を初公開します。

【関連行事】

■講演と対談 楽しみのこけし

日時/6月22日㊥ 13:30～15:00

講師/青野由美子氏(カメイ美術館学芸員)

定員50名 参加無料 電話申込必要

■展示解説会

日時/7月6日㊥ 13:30～14:10

8月3日㊥ 13:30～14:10

入館料必要 申込不要

■博物館でアートを楽しむ

「こけし絵」をかいてみよう

日時/8月2日㊥ 午前の部 9:00～12:00

午後の部 13:00～16:00

講師/いわい美術振興協会会員

定員各回15名(小学4年生以上) 参加料100円

電話申込必要



企画展

企画展

3 村の学びと楽しみ

～本寺肝入の蔵書から～

会期 1月24日㊥～3月22日㊥

入館無料日 1月24日㊥

村の肝入の家では、教養書から実用書まで、さまざまな種類の本を集めて、生活に活かしていました。それらの蔵書は村の内外に貸し出され知識が広まりました。一関市厳美町本寺の肝入の家に伝えられた書籍類から、村の文化と教養を探ります。

【関連行事】

■講演会 近世・近代における本寺の書籍と文化

日時/2月22日㊥ 13:30～15:00

講師/竹原万雄氏(尚絅学院大学准教授)

定員100名 参加無料 電話申込必要

■展示解説会

日時/2月1日㊥ 13:30～14:10

2月22日㊥ 15:10～16:00

3月15日㊥ 15:10～16:00

入館料必要 申込不要



講座

■館長講座

① 餅の文化史

日時/5月11日㊥ 13:30～15:00

② 旅人のみた一関・山目

～一他者の観察眼～

日時/7月20日㊥ 13:30～15:00

③ 藩の学校・養賢堂と教成館

日時/9月28日㊥ 13:30～15:00

④ 地域社会の文化力

日時/3月15日㊥ 13:30～15:00

講師/菊池勇夫(当館館長)

定員各回50名 参加無料 電話申込必要

■超初心者のための絵の見方

絵画鑑賞初心者のみなさんを募集します。学芸員と一緒に絵を見て楽しみませんか。

① 日本画・洋画編 日時/7月19日㊥ 10:30～11:30

② 版画編 日時/8月16日㊥ 10:30～11:30

講師/当館学芸員

定員各回10名程度 参加無料 電話申込必要

■紙の文化史入門編(連続講座)

和紙や洋紙など身のまわりにある紙について、科学的な特徴や歴史を解説します。

① 紙とは何か 日時/6月29日㊥ 10:30～12:00

② 和紙と洋紙 日時/7月13日㊥ 10:30～12:00

講師/当館学芸員

定員24名 参加無料 電話申込必要

■和算講座 入門編

和算の基本や歴史について、わかりやすく解説する連続講座です。

① 生誕250年千葉胤秀

講師/当館学芸員

7月26日㊥ 13:30～15:00

② 和算書のベストセラー『塵劫記』と岩手

講師/菅原通氏(岩手県和算研究会会長)

8月9日㊥ 13:30～15:00

③ 和算書の読み方

講師/千葉秀昭氏(岩手県和算研究会)

8月23日㊥ 13:30～15:00

定員各回24名 参加無料 電話申込必要



ねずみ算『塵劫記』より

■和算講座一研究編(連続講座)

一関の和算家千葉胤秀が編集した『算法新書』の解説を通して和算を学ぶ連続講座です。

日時/15/17㊥、26/14㊥、37/26㊥、

48/23㊥、59/20㊥、61/11㊥

10:30～12:00

定員24名 参加料/300円(初回のみ) 電話申込必要



『算法新書』

■古文書初心者講座(連続講座)

はじめて古文書を読む人を対象に、江戸時代の古文書を教材としてくすし字や古文書の基礎知識を学ぶ連続講座です。

日時/17/20㊥、28/24㊥、39/28㊥

10:30～12:00

講師/菊池勇夫(当館館長)

定員24名(初心者に限ります)

参加料300円(初回のみ)

電話申込必要



御返覧様御通りに付書立

■古文書講座(連続講座)

当館所蔵の古文書を題材として、江戸時代の古文書の解説の仕方や、そこからわかる歴史について学ぶ連続講座です。

日時/11/10/4㊥、21/18㊥、31/11/1㊥

13:30～15:00

講師/当館学芸員

定員24名

参加料300円(初回のみ)

電話申込必要



徳川将軍書状写

■重要文化財「大槻家関係資料」研究報告会

言葉と辞書

学問の大家大槻家に関する最新の研究成果を報告します。

●講演/日本辞書『言海』

講師/田鍋桂子氏(明治大学准教授)

●報告①/「大槻文彦の辞書編纂」(当館職員)

●報告②/「翻訳語と大槻玄沢」(当館職員)

日時/11月3日㊥(文化の日) 13:00～16:00

定員100名 参加無料 電話申込必要

予定が変更となる場合があります。最新の情報は、当館ホームページまたは電話にてご確認ください。